

7. 皮膚科臨床研修プログラム

1. プログラムの目的と特徴

皮膚科医として必要な医学全般および皮膚科学に関する基礎ならびに臨床両面にわたる知識と診断・治療技術を習得することを目的とする。

2. 基本指導体制と週間スケジュール

指導医が随時指導しながら、研修医として患者を担当する。

	午前	午後
月	外来	病棟, 褥瘡回診, 術前検討会
火	手術	手術, 症例検討会
水	外来	病棟 外来
木	外来	病棟, 外来
金	外来	病棟, 勉強会

3. 研修の目標と研修内容

①一般目標

- 1) 皮膚科の診断・治療に関する基本的で最低限必要な知識と技術を効率よく短期間で確実に修得する。
- 2) 皮膚科関連領域の知識と技術を修得する。
- 3) 常に最高、最新の診断・治療水準を維持するように努める。

②具体的な目標

- 1) 患者の臨床経過を正しくカルテに記載できる。
- 2) 患者の緊急事態に対するプライマリーケアができる。
- 3) 患者の不安や問題点を的確に把握する。
- 4) 確定診断および治療に至るまでの計画が立てられる。
 - a. 家族歴・既往歴・現病歴を的確に聴取できる。
 - b. 発症の背景となる生活環境を把握できる。
 - c. 皮疹の形態、性状の正確な把握および全身状態の注意深い観察ができる。
 - d. 皮膚生検の必要性について正しく判断できる。
 - e. 必要な特殊検査の選択ができる。
貼付試験、皮内反応、光線テスト、免疫組織学的検査、細菌培養、真菌検査、真菌培養、遺伝子診断など
- 5) 修得すべき基本手技
 - a. 創傷処置
 - b. 皮膚生検
 - c. 形成外科基本手技（皮膚切開、縫合、植皮、皮弁）
 - d. 貼付試験
 - e. 皮内反応

- f. 光線テスト
 - g. 細菌培養, 真菌検査, 真菌培養
- 6) 次の検査結果を自分で判断できる
- a. 一般病理検査
 - b. 蛍光抗体法検査
 - c. 免疫組織化学検査
 - d. 真菌検査
 - e. 貼付試験
 - f. 光線テスト
 - g. 皮内テスト
 - h. 薬剤アレルギーテスト(内服誘発テストを含む)
 - i. 食物アレルギーテスト
 - j. ダーモスコピー
 - k. 皮膚エコー
- 7) 修得すべき基本的治療法
- a. 外用剤全般の使用法
 - b. 抗ヒスタミン剤・抗アレルギー剤の使用法
 - c. 副腎皮質ホルモン剤の適応と適切な投与方法
 - d. 免疫抑制剤の適応と適切な投与方法
 - e. 抗真菌剤の適応と投与方法
 - f. 細菌感染症に対する抗菌薬の適切な選択
 - g. ウイルス感染症に対する抗ウイルス剤の適切な選択
 - h. 光線療法の理論, 適用疾患, 方法
 - j. 創傷処置方法
 - k. 褥瘡の治療法
 - l. 熱傷の治療法
 - m. 凍結療法、電気焼灼法など非観血的外科的処置の手技
 - o. 心身医学的アプローチ法

6. 研修の評価

到達目標に挙げた各項目につき A, B, C (A:目標に達した、B:目標に近い、C:目標に遠い) に分けて随時自己評価を行うとともに、指導医からも同様の評価を受ける。